

在宅高齢者を対象とした「サテライト・デイ」の新拠点の設立

—御殿町 太池邸での活動—

木下 香織*・古城 幸子

看護学科

(2007年11月7日受理)

新見市新見地区を対象に『「高齢者と子どもたち」が主役のまちづくりサテライトキャンパス社会実験』の取組において、御殿町にある無住の古民家「太池邸」を実験拠点とした‘よりどころ’の活動の1つとして「サテライト・デイ」を実施した。「サテライト・デイ」は、2004年から在宅高齢者の生活圏内に学生と教員が出向いて健康チェックやレクリエーションなどを実施する介護予防活動で、新見市内山間過疎2地区で行なっている。本稿では、2006年11月～2007年2月に、新見市内中心部で開催した3回の「御殿町サテライト・デイ」の活動の実際について報告し、その成果と今後の可能性を検討した。

(キーワード) サテライト・デイ 高齢者支援 地域貢献

はじめに

本学看護学科では、地域の高齢者支援プログラムとして、2000年に発生した鳥取県西部地震で被害を受けた新見市千屋地区の高齢者宅を訪問して、健康チェックや生活支援を行なう「千屋ボランティア」^{1) 2)}、2003年からはICTを活用した在宅高齢者の健康や生活を支援する「新見まごころネット」^{3) 4) 5)}、そして2004年からは在宅高齢者の生活圏内に学生と教員が出向いて健康チェックやレクリエーションなどの介護予防活動を実施する「サテライト・デイ」^{6) 7)}を行なっている。

初年度には新見市井倉熊野地区で開始し、2005年には新見市豊永地区においても開催している。本稿では、2006年に新見市中心部の御殿町地区で実施した「サテライト・デイ」の新拠点設立に向けた活動について報告する。

1. 御殿町での「サテライト・デイ」の開催までの経過

にいみ御殿町夢づくり実行委員会が主体となり、国土交通省の平成18年度都市再生プロジェクト推進調査による、御殿町地区を対象に『「高齢者と子どもたち」が主役のまちづくりサテライトキャンパス社会実験』の取組が行われることになった。その取組は、御殿町にある無住の古民家「太池邸」を実験拠点として‘よりどころ’と名づけ、講座やイベントなどさまざまな活動が計画された。にいみ御殿町夢づくり実行委員会より本学への協力、

参加の依頼があり、2006年10月18日の教授会において、学長から協力の発案があった。

社会実験実施期間は2006年11月～2007年3月までの5ヶ月間である。にいみ御殿町夢づくり実行委員会から短大への要請内容は、教育講演会と「サテライト・デイ」の実施であった。その実験報告は「高齢者と子どもたち」が主役のまちづくりサテライトキャンパス社会実験報告書⁸⁾としてまとめられている。

II. 御殿町地区での「サテライト・デイ」実施の意義と可能性

‘よりどころ’として設定された新見市御殿町地区は、1970年代までは商店が立ち並ぶにぎやかな商店街の一角であり、新見市商業の中心部であった。幹線道路の整備や郊外への大型店舗の進出に伴って、現在では人口の空洞化、住民の高齢化が進んでいる。御殿町地区は住宅が密集しており、「サテライト・デイ」構想の目指している“高齢者の生活圏内で歩いて通える交流の場づくり”が実現できると考えた(図1)。また、国道やJRの駅にも程近く、近隣には官公庁や基幹病院、小学校や高等学校などがあり、「サテライト・デイ」の会場近隣の御殿町地区だけでなく、広い範囲に居住する地域からの参加が可能になる。また、参加者の年齢層も、高齢者層だけでなく、帰宅後の小学生、子育て世代の母親や乳幼児へと広がる可能性があると考えた。年齢層の拡大は、本学他学科との連携を図ることによって、子育て支援や学童保育など、

*連絡先：木下香織 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

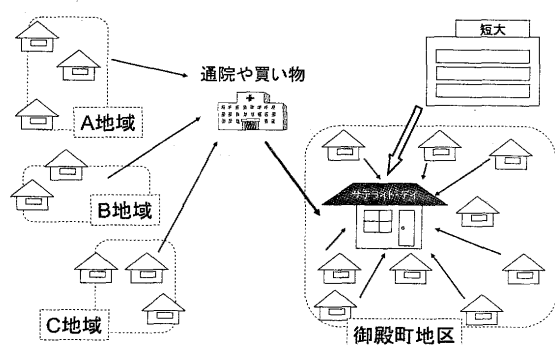


図1 御殿町での「サテライト・デイ」計画

より幅広く専門性の高い支援を提供する場作りになる可能性が示唆される。参加する高齢者にとっては、子育て世代の女性と乳幼児という新たな異世代交流の場となり、育児などの知恵や経験を伝承する機会ともなる。

さらには、「新見まごころネット」との融合により、「新見まごころネット」の利用者の拡大につながり、相談内容も健康や介護に関する内容に加えて、子育てや子どもの発達に関する内容など多岐にわたっての相談が可能となる。電子掲示板での交流もさらに活発に行なわれることも予想される。

以上のことから、御殿町での「サテライト・デイ」（以下、「御殿町サテライト」とする）の開催意義として、以下の5点（表1）にまとめることができた。これまでの取り組みでは、看護学生と高齢者の異世代交流の場となること、高齢者にとっては自身の経験や地域の伝統行事などを若い世代に伝承する場やいきがいににつながることで、看護学生にとっては病院や高齢者施設で関わる高齢患者や虚弱高齢者ではなく、生きがいをもって在宅で生活する高齢者との交流により高齢者観が広く深くなることなどが明らかになっている。御殿町地区という地域の特性によって、「サテライト・デイ」の開催意義はさらに大きくなると期待できる。

表1 「御殿町サテライト・デイ」の開催意義

- 1.「サテライト・デイ」が目指す“高齢者の生活圏内で歩いて通える交流の場づくり”が実現できる。
- 2.「サテライト・デイ」の会場近隣の地区だけでなく、広い範囲に居住する地域からの参加が可能になる。
- 3.参加者の年齢層が高齢者層に加えて、帰宅後の小学生、子育て世代の母親や乳幼児へと広がる可能性がある。
- 4.他学科との連携を図ることによって、子育て支援や学童保育など、より幅広く専門性の高い支援が可能になる。
- 5.「新見まごころネット」との融合により、「新見まごころネット」の利用者の拡大や、子育てや子どもの発達に関する内容など多岐にわたっての相談が可能となる。電子掲示板での交流もさらに活発に行なわれることも予想される。

III. 活動経過

計画の立案にあたっては、「サテライト・デイ」の目的やこれまでの成果を住民や関連団体に説明し、地域の方々との協力体制を作るよう努めた。また、短大の地域貢献として何ができるかという視点と、地域住民による地域づくりを目指すという視点をもって、地域住民のアイデアや人脈を最大限に活かせるよう、そのサポートに努めることを心がけた。

1. 実施状況

3回の「御殿町サテライト」の実施状況を表2に示した。毎回の実施予定時間は13:30～15:00とした。

表2 御殿町サテライト・デイ実施状況

開催日	実施内容	参加者	短大担当者
2006年 12月27日	御殿町サテライト・デイの説明 健康チェックのし袋づくり	大人15名 小学生2名 幼児3名	古城・木下
2007年 1月25日	健康チェック 季節の花（スイセン）の壁飾りづくり	大人15名 幼児1名	上山・掛屋 馬本・木下
2007年 2月27日	健康チェック大人の塗り絵 輪投げ 遠隔指導での転倒予防体操	大人8名 幼児1名	古城・栗本 岡本・馬本 木下

【第1回：2006年12月27日】

①活動内容

看護学科教員2名で担当した。実施内容は、「サテライト・デイ」についての説明と、健康チェックとして身長、体重、血圧、体脂肪率、骨量の測定を行ない、測定結果の説明や健康相談を実施した。その他手作業として、年始にむけて和紙模様の折り紙を使った「熨斗袋」の作成を企画した。参加者は大人15名、小学生2名、幼児3名で、徒歩や自転車の利用による市内中心部からの中高齢層の参加者が多かった。開始予定時間前から参加者が集まり、来訪者から順次、健康チェックを開始した。14時すぎ、健康チェックが一段落したところで、熨斗袋を作りながら「サテライト・デイ」についての説明をした。終了予定時刻を過ぎても参加者があったので、健康チェックを引き続き行なった。「太池邸」の1階部分は、土間と二間続きの和室、和室に上がりがけの畳の間となっている。今回は、健康チェックを和室上がりがけの畳の間、熨斗袋作りや「サテライト・デイ」の説明は土間にテーブルと椅子を準備して行なった。当日の様子を紹介した「よりどころ」発行の「よりどころ通信」の記事を図2に示した。

②評価と課題

年末の開催ながら、開始予定前から予想以上の参加者があった。参加者は健康チェックへの関心が高く、個人

カルテを作成し保管するシステムだと説明すると、継続して参加したいと話す参加者もあった。熨斗袋作りは、見本の作品に個人で工夫を加えて作成される参加者もあった。小学生から年配の参加者まで、年齢や男女を問わず、参加していただいた。‘よりどころ’のコーディネーターを務めるスタッフの方から、「参加者の皆さんが熱心に参加されていた」と良い評価をいただいた。開始から1時間程度は健康チェックの実施に専念する状況で、手作業を同時に実施することはできなかった。参加者が自由に交流できる利点もあるが、手作業を同時に実施したり、参加者同士の交流を促進する担当者が必要だと感じた。

会場の準備として、BGMを流したり説明をするにはマイクとスピーカーの音響設備が必要で、次回より短大から持参することとした。土間には丸椅子が準備されていたが、参加者には高齢者が多いため、背もたれのある椅子で安全に座れることが必要である。また、土間の凹凸で椅子は不安定になりやすく、雨や雪の日には濡れた履物が滑りやすいため、転倒などの危険性を予防するために土間の整備の必要性もある。飴などのお菓子を少し準備していたが、飲み物も準備できると、参加者同士の交流や待ち時間の過ごし方がよりよいものになると感じた。運営の都合上、セルフ形式で安価ながら有料で提供することを検討していきたい。

【第2回：2007年1月25日】

①活動内容

看護学科教員4名で担当した。実施内容は、前回と同様の健康チェックと健康相談、手作業として季節の花であるすいせんの壁飾りの作成を行なった。前回と同様に、健康チェックを和室上がりがけの畳の間、壁飾りの作成

は土間のテーブルと椅子で行なった。参加者は大人15名、幼児1名で、自家用車を利用した市南部からの参加者もあった。参加者が開催時間中、途切れずにあったので、担当者は健康チェックと手作業を2名ずつで分担し、同時進行で行なった。手作業への参加は女性が中心で、男性参加者とは会話を中心とした交流を図った。木工芸を嗜む男性参加者はその作品を、また他の女性参加者は「サテライトに参加して嬉しかったから」と手作りの食器洗いたワシをわざわざ持参してくださった。

②評価と課題

担当者4名で、健康チェックと手作業とを分担して担当したことで、どちらの内容でも参加者とゆとりをもって関わる事ができた。パワーポイントで、本日の予定など説明をするために準備していたが、参加者が途切れずに次々と来訪されるため、説明の時間は確保できなかった。スライドショーで内容を流すことで、参加者の目に自然に触れることができるので、前回の実施風景の写真なども加えて映写することも検討していきたい。

健康チェックでは、体脂肪率の測定体位が口頭での説明だけでは理解が得にくいことがあるので、視覚的にも分かりやすいような工夫があるとよい。また、参加者の中に健康チェックの測定結果を持ち帰りたいとの希望者もある。現在は、測定結果は短大が保管する個人用カルテに記入しており、希望者には足指力の測定結果を記入する用紙の余白に記入して持ち帰ってもらっている。今後、持ち帰り希望者が増えるようであれば、そのための用紙も検討する必要がある。

【第3回：2007年2月27日】

①活動内容

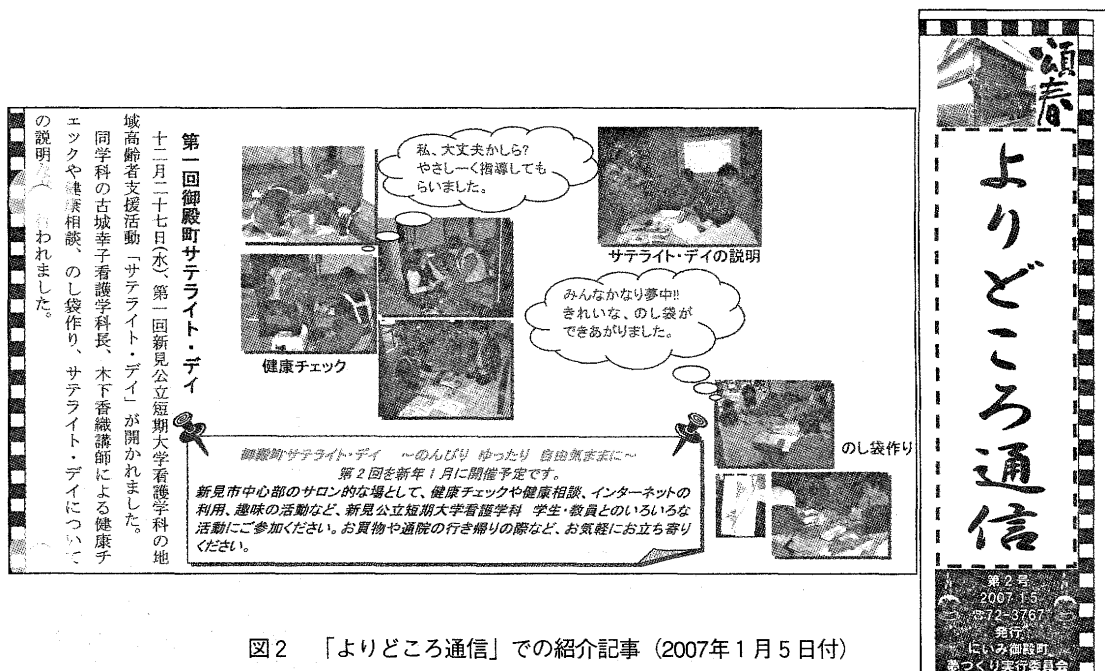


図2 「よりどころ通信」での紹介記事（2007年1月5日付）

看護学科教員5名と看護学科2年次生5名で担当した。実施内容は、これまでと同様の健康チェックと健康相談、手作業として塗り絵や輪投げ、そして遠隔での転倒予防体操の指導を企画した。これまで会場としてきた‘よりどころ’は雛祭りの展示中であるため、今回は「太池邸」に近い御殿町センターの和室を会場として開催した。参加者は大人8名、幼児1名であった。開始時間を勘違いして1時間前から来られた参加者、前回参加し「開催を心待ちにしていた」と話す参加者もあった。「太池邸」で展示されたお雛さまの鑑賞に訪れた方や近隣のスーパーからの買い物帰りの親子連れに声をかけ、興味をもって参加していただいた。

塗り絵は「大人の塗り絵」で、脳の活性化に役立つと人気のシリーズの中から、比較的塗りやすい花の題材を選んだ。見本では色使いも複雑だが、その色の濃淡を色鉛筆では表現しにくい。輪投げは、高齢の参加者から幼児まで参加できた。

遠隔での転倒予防体操は、短大と御殿町センターとで画像を通信するように企画したが、通信状況の都合で実施できなかった。そのため、御殿町センター内で参加者のいる和室と看護学科2年次生が控えた別室とを通信した指導を行なった(図3、4、5)。

②評価と課題

過去の2回に比較して参加者は少なかった。開催場所の変更は事前広告には記載してあったが、当日の「太池邸」では、「サテライト・デイ」を実施していることや場所の変更が分かりにくかった。その一方で、前回から継続した参加者もあった。「御殿町サテライト」について知ってもらうためには、事前広告や掲示だけでなく、地域住民への直接的なPR活動も必要だと感じた。「太池邸」周辺には高齢者の独居世帯や夫婦世帯も少なくない。周辺の住宅への訪問などを含めて、地域住民とのなじみの関係を築いていけるような対策も検討したい。

遠隔指導の実証実験では、時間の都合で参加者は女性高齢者1名となった。看護学生5名とマンツーマンの和やかな雰囲気で行なえた。指導した学生の評価は“指導の意図が伝わった”“有効なツールになる”など、高齢者は“指導が理解できた”“臨場感があつた”など、両者とも全体的に肯定的評価であった。場面に応じてズームするカメラワークなど、技術的な課題が明らかとなった。

2. 運営の実際

今年度の「御殿町サテライト」は、年度途中からの試験的な開催であり、学生を中心とする運営は困難なため、看護学科教員による運営を行なった。著者らが毎回の活動内容の企画を提案し、担当に参加するその他の教員と協議し、準備を行なった。

健康チェックでは、参加者個人ごとのカルテを作成し

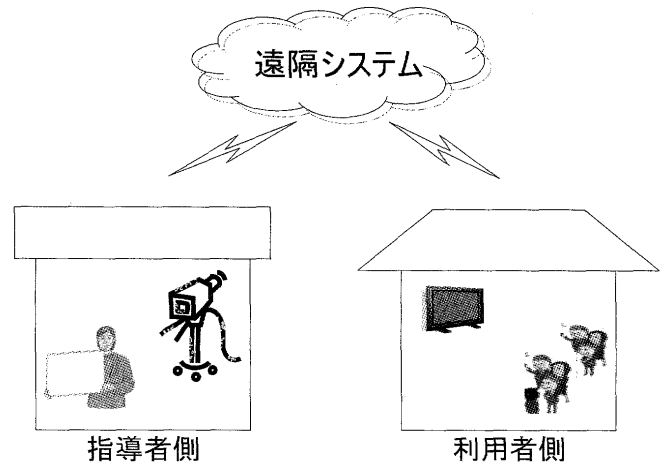


図3 遠隔指導システム

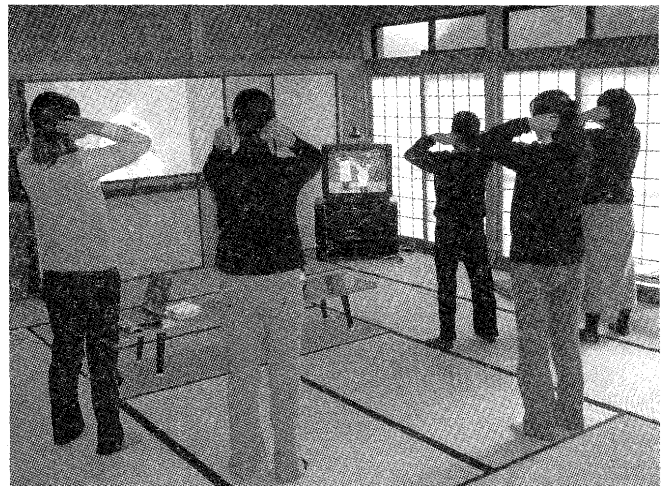


図4 遠隔システムによる転倒予防体操の指導風景



図5 遠隔指導に関する新聞掲載記事
(山陽新聞、2007年2月28日付)

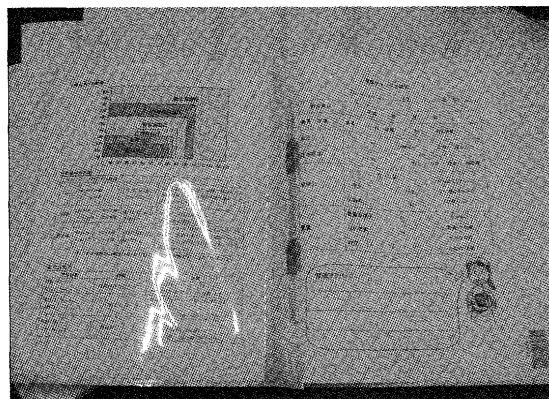


図6 「御殿町サテライト」の健康チェックでの個人カルテ

た(図6)。カルテは短大側で保管し、「御殿町サテライト」の開催ごとに会場に持参することで、参加者はカルテの携帯の必要はなく、気軽に立ち寄ることができる。表紙裏には、血圧や体脂肪率、骨量などの測定値の判定基準を示し、測定値の記入とともに結果の説明が行なえるようにしている。測定値は、参加の回ごとに1枚の用紙にまとめて記入する。

開催後には、担当者で当日の評価を行ない、「御殿町サテライト・デイ 運営日誌」に記入した(図7)。運営日誌に記載した内容は、「よりどころ」のスタッフにも提出し、活動状況の報告と連携の強化を図った。

IV. 「御殿町サテライト」の成果と今後の課題

1. 「御殿町サテライト」の成果

2006年度の3回の活動では、明確な成果としては述べたいが、市中心部で開催することによる利点や可能性を秘めていることが感じられた。先に述べた「御殿町サテライト」の開催意義5点をもとに3回の活動の成果を評価する。

①「サテライト・デイ」が目指す“高齢者の生活圏内で歩いて通える交流の場づくり”が実現できる

②「サテライト・デイ」の会場近隣の地区だけでなく、広い範囲に居住する地域からの参加が可能になる

2006年度の3回の実施時期は、寒さが最も厳しい時期で、場合によっては降雪によって参加者の得られにくい時期となった。しかし、御殿町周辺やその近隣の地域から徒歩や自転車での参加者、自家用車を利用した参加者と、新見市内のさまざまな地域からの参加があった。自家用車を利用した市内南部からの女性参加者は、「地方新聞で広告の記事を見た。市内中心部での用事を済ませて寄ってみた」と話していた。また、徒歩で来場した男性参加者は、「よりどころ」に近い理髪店で「御殿町サテライト」の話を聞いて立ち寄ったとのことであった。活動を継続していくことで、「御殿町サテライト」が市民の生活の中

開催予定時間	平成 年 月 日() 時 ~ 時
担当者名	〇〇〇〇・〇〇〇〇
計画	健康チェック、、、、
開催実施時間	時 分 ~ 時 分
参加者	大人: 名 子ども: 名
活動内容	実際の活動中の様子など
評価・課題	活動の評価や今後の課題など

図7 「御殿町サテライト・デイ運営日誌」への記入内容

に溶け込んでいき、多くの参加者が「サテライト・デイ」の目標とする「のんびり・ゆったり、自由気ままに」⁹⁾立ち寄って交流できる場になり得ると感じた。

③参加者の年齢層が高齢者層に加えて、帰宅後の小学生、子育て世代の母親や乳幼児へと広がる可能性がある

④他学科との連携を図ることによって、子育て支援や学童保育など、より幅広く専門性の高い支援が可能になる

2006年度の3回の開催時間は、午後3時までという時間設定であったため、地域に生活する児童や生徒の参加は困難であった。開催時期や時間設定を考慮することで、もっと多くの参加者、幅広い年齢層の参加者が得られる可能性があると考ええる。

第3回到幼児を連れた母親の参加があった。我が子が担当者と遊ぶ姿に目を細めながら、成長に喜びや楽しみを感じると話した。その帰り際、「今日の参加は偶然であったが、子どもと二人きりで過ごしているのも、とても気分転換になった」とも話していた。少子化の現代において、子育て世代の母親の抱える疑問や不安も大きい。子どもの成長・発達、健康問題、育児の相談など、さまざまな不安や疑問に対応していくためにも、他学科との連携は不可欠であると感じた。

⑤「新見まごころネット」との融合により、「新見まごころネット」の利用者の拡大や、子育てや子どもの発達に関する内容など多岐にわたっての相談が可能となる。

2006年度の活動においては、「新見まごころネット」との融合を図ることはできなかった。しかし、上記の成果や今後の可能性から、「御殿町サテライト」の会場に、自由に利用できるパソコンを設置し、「新見まごころネット」へのアクセスを促進することにより、短大が地域に果たせる役割はより大きくなると考える。

2. 今後の課題

PR活動について、2006年度は‘よりどころ’スタッフを通じて、「太池邸」での掲示や通信の配布、地方新聞への広告掲載をしていただいた。今後は、御殿町周辺の住民への草の根活動的なPRをしていくことが、活動を地域に根付かせていくと考える。「御殿町サテライト」開催日には、会場で待機するだけでなく、周辺の住宅への訪問活動など、具体的に検討していきたい。

2007年度の活動予定としては、老年看護学実習の一環として、年間8回の実施を計画していた。しかし、にいみ御殿町夢づくり実行委員会の「まちのよりどころ」活動が2007年3月末で終了したため、「御殿町サテライト」も休止している。現在、新見市中心部の活性化を考える住民組織「太池邸を活かしたまちづくりを考える会」（仮称、山本栄一仮代表）を立ち上げ、活動を再開する計画が進んでいる。「太池邸」の利用計画が明らかになり次第、今後の御殿町サテライト・デイの再検討を行なっていくと考えている。

なお、本活動は、2006年度学長配分研究費によりご支援をいただきました。また、実際の活動においては、看護学科教員のご協力をいただきましたこと感謝いたします。

文献

- 1) 古城幸子・木下香織・真壁幸子ほか：鳥取県西部地震による新見市千屋地区被災高齢者への支援活動の報告 その1 被害状況とボランティアとして短大の果たした役割，新見公立短期大学紀要（22），81-88，2001
- 2) 金山時恵・古城幸子・土井英子ほか：鳥取県西部地震による新見市千屋地区被災高齢者への支援活動の報告 その2 高齢者世帯への短大ボランティア訪問活動の実際と課題，新見公立短期大学紀要（22），89-96，2001
- 3) 古城幸子・木下香織・栗本一美ほか：在宅高齢者支援に関する短期大学の地域貢献－阿新キャンパスシティ構想の実現－，新見公立短期大学紀要（25），187-194，2004
- 4) 真壁幸子・太田浩子・栗本一美ほか：ITを活用した介護ネットワーク利用者の健康に関するニーズの分析，第35回日本看護学会論文集－老年看護－，67-69，2005
- 5) 金山時恵・栗本一美・真壁幸子ほか：介護ネットワーク利用者の生活内容の傾向と有効性の検討－生活に関するメール内容の分析より－，看護・保健科学研究誌，5（2），85-89，2005
- 6) 栗本一美・古城幸子・木下香織ほか：在宅高齢者を対象にした「サテライト・デイ」の運営評価，新見公立短期大学紀要（26），177-185，2005
- 7) 古城幸子・栗本一美・木下香織ほか：看護学生が在宅高齢者の生活圏内で実施する「サテライト・デイ」での教育効果，日本看護福祉学会誌12（1），14-15，2006
- 8) にいみ御殿町夢づくり実行委員会：「高齢者と子どもたち」が主役のまちづくりサテライトキャンパス社会実験報告書，国土交通省住宅局，2007
- 9) 古城幸子・木下香織・栗本一美ほか：在宅高齢者支援に関する短期大学の地域貢献，新見公立短期大学紀要（25），187-194，2004

Establishment of a New Base of “Satellite Day” for the Elderly Living at Home － Activity in Oike Residence in Goten-machi －

Kaori KINOSHITA¹⁾, Sachiko KOJO¹⁾,

¹⁾Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

In “Social experiments by the Satellite Campus in town activities led by the elderly and children” in the Niimi region, Niimi City, we performed “Satellite Day” as one of the “support” activities with a base in “Oike Residence”, an old and uninhabited private house in Goten-machi. “Satellite Day” is a care prevention activity that has been performed since 2004 in two underpopulated mountainous areas in Niimi City by teachers and students, who visit living area of the elderly and perform health checks and recreational activities. In this study, we reported the activities of “Goten-machi Satellite Day” held three times in the central area of Niimi City between November 2006 and February 2007, and evaluated its results and potentialities.